

システム情報工学研究科特定課題研究報告書概要

年 度	平成 21 年度	学位名		修士(ビジネス)
専 攻	経営・政策科学	専攻	著者氏名	額尔敦 套吐格
指導教員氏名 原田 信行				
報告書題目 株式市場と企業価値 (EVA による企業価値の実証分析)				
報告書概要 本研究では、企業価値評価尺度として新しい開発された経営指標EVA (Economic Value Added、経済付加価値) の現実の企業価値を説明する能力を従来から日本企業において業績評価に用いられてきた主な経営指標 (ROE、EPS、純利益等) との比較を通じて、EVAの経営指標としての有効性を明らかにするために、日本上場している銘柄のうち製造業 (50社) 、分析期間2001~2005の財務データと株価データを用いて、経営指標を説明変数とし、企業価値 (MVA (市場付加価値) と株価騰落率の場合に考える) を被説明変数とする推計式を作成して、実証分析を行った。その結果を要約すれば、以下のとおりである。 1) Δ MVA を被説明変数とする場合、 Δ EVA 比率の説明力は伝統的な収益性指標 (ROE、EPS、純利益等) どちらによりも最も優れていることがわかった。 2) 株価騰落率を被説明変数とする場合、説明力が最も優れた指標は Δ 純利益比率で、次に ROE 指標は続く。 Δ EVA 指標は有意に認めても、説明力は低いという結果である。この場合、EVA 指標は伝統的な収益性指標 ROE や純利益より優れた指標とは言えない。 以上をまとめれば、EVA 指標の企業価値の説明力は、全般的に伝統的な収益性指標より優れなかった。しかし、理論的に関係にある MVA (市場付加価値) を被説明変数とする場合には、伝統的な収益性指標を上回って、最上位となった。相対的優位性を発揮して、経営指標としての有用性は高いことが示された。結局、EVA 指標は企業価値に対して一定の説明力を有しているが、伝統的な収益性指標を完全に代替することはできないと判断する。				
審査日 平成 22年 2月 3日				
審査員 (大学名 職名) (学位) (氏名)				
主査	筑波大学 准教授	Ph.D. in Organizational Behavior		渡辺 真一郎
副査	筑波大学 准教授	Master of Science in Financial Economics		高安 雄一
副査	筑波大学 准教授	博士(理学)		原田 信行